

青葉区明るい選挙推進作文コンクール

2021 入賞作品集



ぼく、「えら坊」!

平成9年12月25日生まれの青葉区の選挙マスコットキャラクター! 区民の皆様からご応募いただいた519点のデザインの中から選ばれたんだ♪

青葉区民まつりなど各種イベントで、不正のない明るい選挙の推進や投票率の向上の呼びかけをしているよ。



☆明るい選挙推進協議会とは

- ① 不正のないきれいな選挙(寄附の禁止)
- ② 投票総参加の推進

を大きな柱として活動をしている団体で、全国の都道府県・市区町村に設置されています。

☆青葉区明るい選挙推進協議会とは

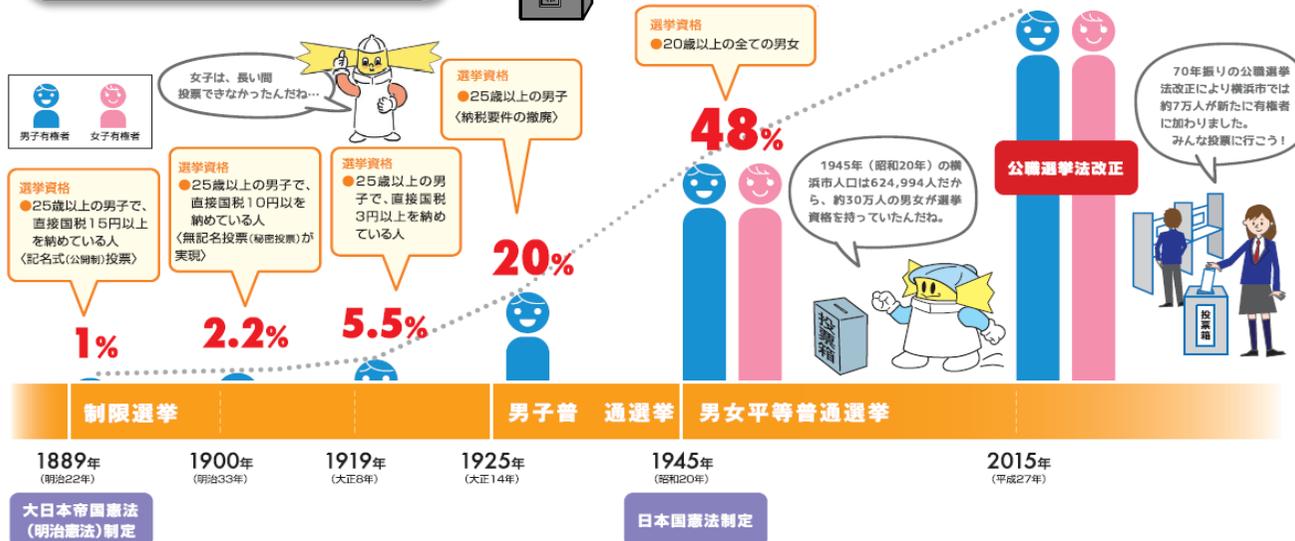
自治会・町内会等から推薦された推進委員14名と推進員113名により構成され、選挙時の街頭啓発などの活動を行っています。



選挙に関するマメ知識

選挙権の歴史だよ。

当初は、人口の約1%しか投票できなかったんだね。



「選挙の3原則」



1 普通選挙

選挙権は、一定の年齢に達したすべての国民に与えられる

2 平等選挙

選挙人一人に一票。性別・財産・学歴などでの差別はない

3 秘密投票

誰が誰に投票したかが、わからないような方法で選挙がおこなわれる

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二一を終えて



青葉区明るい選挙推進作文コンクールは今回で第五回目の実施となりました。今回の応募数は九十作品と前回の応募数には達しなかったものの、八月二十二日に横浜市長選挙が執行された影響もあり、多くの作品が選挙に興味、関心を抱いている作品となっていました。この度、青葉区明るい選挙推進協議会推進員、区内小学校長三名、青葉区選挙管理委員長、青葉区長の皆様のご協力のもと、一つ一つの作品を審査させていただきました。

審査基準は次の通りです。

- 一 横浜や青葉区、地域に対する思いが感じられること。
- 二 選挙や政治・社会の仕組みについて正しく理解していること。
- 三 時事問題について興味を示し、適切に取り入れていること
- 四 知識、事実を並べるだけでなく、独自の発想、意見が述べられていること。
- 五 文脈がしっかりしていて、論理が一貫していること。

結果、「青葉区明るい選挙推進協議会会長賞」、「青葉区選挙管理委員会委員長賞」、「青葉区長賞」が各一名ずつ、「えら坊賞（佳作）」五名の計八名の入賞を決定いたしました。

私が読ませていただいた作品はどれも、各々が疑問に思ったことを調べ、まとめて、自分の意見として作文しており、未来の有権者としての熱い思いがこめられています。中には、初めて知るような海外の事例の具体例や、横浜市長選挙の選挙期間中に感じたことを意見として例示している作品もあり、感銘を受けました。

本年度は当コンクールの応募期間後に衆議院議員総選挙も執行され、より皆様には選挙に近い存在に感じられる一年になったのではないかと思います。私たちも、この熱い思いを絶やさぬよう今後も選挙啓発に尽力させていただきます。

ご協力いただきました関係者の皆様に厚く御礼申し上げます。

青葉区明るい選挙推進作文コンクール二〇二一審査員長
青葉区明るい選挙推進協議会会長

奥田 妙子

目次

― 青葉区明るい選挙推進協議会 会長賞 ―

「自分たちの未来を」

鴨志田中学校 三年 小林 桔花 …… 1

― 青葉区選挙管理委員会 委員長賞 ―

投票率増加への一歩

鴨志田中学校 三年 横溝 悠 …… 3

― 青葉区長賞 ―

より良い選挙に

鴨志田中学校 三年 大森 正慈 …… 5

― 佳作 えら坊賞 ―

なぜ選挙にいく必要があるのか

鴨志田中学校 三年 伊関 暖 …… 7

若者が投票するには

鴨志田中学校 三年 廣橋 杏香 …… 8

一票の重み

鴨志田中学校 三年 河上 晴登 …… 9

選挙を身近にするために

鴨志田中学校 三年 井澤 美南 …… 10

選挙がやってくる

山内中学校 三年 能城 茉依 …… 11

青葉区明るい選挙推進協議会会長賞

「自分たちの未来を」

鴨志田中学校 三年 小林 桔花

家の中にいると、ふと外から選挙カーの音が聞こえてきた。もう選挙の時期なのか、と思いつながら耳を傾けると、「カジノ」という一語がはつきり聞き取れた。

この横浜にリゾート施設ができるかもしれない。そんな話は、まだ選挙権を持たない私にもしつかり届いていた。そして、その施設の中にあるカジノについて、様々な意見があるのも知っていた。確かに、カジノがあることによって、経済に良い影響はあるはずだ。しかし、治安の悪化や、ギャンブル依存症の増加に不安の声もある。どちらかというところは後者側だった。治安が悪くなると、横浜が汚れてしまうような気がしたからだ。

実際のところ、次の横浜市長選挙で、施設について着目した選挙が行われるだろう。ここで市長が賛成か反対か、どちらを考えているかを知り投票しないといけない。横浜の未来が、そこで決まると言っても過言ではない。

最近では投票率が低下している。高齢者が投票してばかりで、若者はあまり投票していない。そんな話も聞いたことがあった。調べてみると、確かに十歳代、二十歳代の投票率は低かった。特に二十歳代が低く、十歳代は二番目に低い。これは、十八歳でやっと投票権を手に入れ、興味本位で投票してみたが、二十歳になつてからは興味が無くなった、というような理由もあると思う。今現在、少子高齢社会となっている日本で、このような結果が出てしまうのも無理はないのかもしれない。しかし、これからの未来を引き継ぐ若者たちにこそ、投票はしてほしいはず。自分の考えを持っているのに選挙に参加しないなら、尚のこと無駄である。

二〇一六年、十八歳以上の男女に選挙権が与えられた。若者たち

に、未来をより早く考えさせる時代が来た。まだ選挙権を持たない私たちも、自分たちの住む町を大切にするため、日々選挙について考えなければいけない。カジノ問題、コロナ問題、私たちが生きていく時代に、もっと多くの問題が発生するだろう。私たちがより生きやすい場所を作るには、選挙は必要不可欠だ。改めて、そう考えることはできないだろうか。

私が選挙権を獲得するまで、あと約三年。「まだ選挙権を持っていないから、選挙についてあまり考えなくて良い。」じゃなく、「この三年でより未来を良くするためにできることを考える」ようにしたい。誰もが幸せになり、安心した生活を送る場所は、私たちが作るのだ。

〈講評〉

選挙カーからの「カジノ」という一語を聞いて、選挙によって経済や治安など横浜の未来が決まると関心を持ち、若者の投票率の低さや諸問題にふれながら選挙の重要性へと展開していったところが面白いと思いました。また、十八歳以上に選挙権が引き下げられたことを「未来をより早く考えさせる時代が来た」と捉え、これからの三年でより未来を良くするためにできることを考えていこうとする決意と、地域を大切に思う温かい気持ち伝わってきた作品です。

青葉区明るい選挙推進協議会会長

奥田 妙子

投票率増加への一歩

鴨志田中学校 三年 横溝 悠

三十七・二一。皆さんは、この数字が何を表しているか分かるだろうか。これは二〇一七年に行われた、前回の横浜市長選挙の投票率だ。私は、この数字が決して高いとは思わなかった。しかし、そう思っている私自身も将来投票には行かないかもしれない。なぜなら、選挙というものへの理解が少なく、無関心な部分があるからだ。では、どうしたらこの投票率を上げ、政治・社会活動の活性化につなげていくことができるだろうか。

ニュースなどでよく年代別投票率を見かけると、高齢者が多く、若者の割合が少ないイメージを受ける。原因として、「自分が投票しなくても影響はない」「面倒くさい」など、やはり政治に対する関心の薄さが投票率の低さにつながっていた。そこで私は、海外での投票率や選挙について調べてみた。すると、トップのベトナム、オーストラリア、シンガポールなどは九十パーセントを超えており、日本とは約五十パーセント以上の差があることが分かった。この事実を受けて、さらに私は、海外の国々が行っている対策や工夫についても調べてみた。シンガポールやオーストリアでは罰金制度を定め、強制的に投票させるようになっていた。これによって、百パーセントに近い投票率を得られているもの、やや堅苦しい感じもある。一方、同じく投票率の高いスウェーデンでは社会科の教科書に、投票に行くことや、自分の意見を社会に反映させるために集会やデモを行うことが大切だと書かれている。また学校内では投票が行われることが多く、選挙に関する学校教育が充実している。さらに、給食・学生寮の建設などお金が絡む大事な決定会議の場に子どもが参加して決めることができ、その内容が実際に反映されることもあ

る。

私は、我が国でもこのような機会を設け、自分たちの意見で世の中が変わるということを日常的に経験できるようにし、社会の仕組みに対する関心を深められればいいと思う。それに加えて、インターネットでの投票を可能にするなどにより身近で手軽にできるようにすることで、「関係ない、難しい」という印象から、「投票しよう」という意識が変わり、その意識が一票一票の投票数の増加につながると思う。しかし、その手軽さが票の増加だけでなく、軽々しく投票する人を生むかもしれない。ここで、一番忘れてはいけないのは選挙本来の目的だ。選挙は、私たちの社会をより良くするためである。違う方向から言えば、私たちの票が今後の社会を左右しているのだ。私たちが今後を作り、生きていく社会を明るくするために、私には、私たち一人一人が他人任せにせず、自ら進んで選挙を学び、そして選挙に公正かつ積極的に参加することが大切だ。

今年の八月末に、横浜市長選挙が行われる。私はまだ投票できないけれど、選挙について調べたり聞いたりして知識を蓄え、将来に役立てられるようにしていきたい。

〈講評〉

冒頭で「私自身も将来投票には行かないかもしれない。」という意識があったものの、この作文を通じて、自ら学ぶ姿勢を持ち日々を過ごしていく意思を感じるとも希望に満ち溢れた作品です。単に投票率が上がれば良いという考えではなく、「選挙本来の目的」を忘れてはいけなさと注意喚起することで、選挙の意義を言及している点により説得力が感じられます。また、文章全体に一貫性があり、非常に読みやすい作品です。

青葉区選挙管理委員会委員長

高橋 俊雄

青葉区長賞

よりよい選挙に

鴨志田中学校 三年 大森 正慈

八月二十二日の横浜市長選挙の投票率は四十九・〇五パーセントだった。前回よりも十一ポイント増加したというものの、まだ半分にも達していない。私のクラスで例えると、三十二人中十六人未満の人しか投票していないことになる。そう考えると、まだ物足りなく感じてしまう。投票は国民の権利だ。もっと積極的に意見を出すべきである。

だが、これほど投票率が低くなることも無理はないのかもしれない。選挙が、どこか遠い存在に感じてしまうからだ。日常生活で選挙の話をすることも少ないし、ご高齢の方が投票に行く印象があつて堅苦しく感じてしまう。

では、どうすれば投票数を多くできるのだろうか。二つ考えてみた。

第一に、投票場所を増やすこと。現在は学校や地区センターなど地域の施設に限定されていることが多い。そこで、駅やバス、インターネットなどでの投票を可能にしてみたらどうだろう。駅やバスの中なら通勤中に投票ができる。バス内の投票に関しては愛知県や静岡県などで実践例があり、有権者から好評を得たという。このように投票に手間がかからないようにすれば、忙しい人でも参加できるようになると思う。

第二に、特典をつけること。今回の横浜市長選挙では、投票した有権者に銭湯の入浴料の割引サービスが受けられる「選挙割」が行われた。この「選挙割」は十年ほど前から政治参加のきっかけづくりとして注目を浴びており、過去には約三百人が利用していたという。このような活動をもっと広げていけば、投票する人も増えていくだろう。

さて、ここまで二つの「投票数を増やす方法」を紹介してきた。だが、こうして投票率が上がった所で、本当に解決するのだろうか。選挙はリーダーを決めるものだ。適当に投票するようでは、本末転倒である。

では、どうすれば政治に関心を持つようになるのだろうか。

それは、あらかじめ選挙について考える機会を設けることで解消されると思う。政治への関心が高く、投票率が八十パーセントを下回ったことがないデンマークでは、中学校の授業で模擬投票がある。政治や政党について学習したり、話し合いをしたりすることで、どの政党を選ぶのかを決めている。このようなことが日本にも必要なのではないだろうか。日本の学校で公民を学ぶように、政党について調べる時間を設けるべきだと思う。最低限の知識があれば、自分で意見を持って投票することができるはずだ。生徒同士での話し合いもすれば、より客観的で慎重な政党選びも可能になるだろう。

このような工夫をすることで、投票率はもちろん、一人一人がしっかりと意見を持って選挙に参加できるようになるだろう。それまでにまだ時間がかかるが、私達国民は今の選挙を少しでも早く、より良くすべきである。

〈講評〉

横浜市長選挙で実際に感じた投票率の低さに着目し、投票率を上げる方法や、選挙への関心を高める方法を具体的に述べている点が良いと思いました。実際に他の自治体等で実践されている具体例を挙げることで、より説得力のある作文となっています。

また、具体例を実践するだけでは、選挙本来の目的から逸脱する可能性を指摘し、選挙権を持つよりも前の年齢から選挙を学ぶことの重要性についても述べている点に共感が持てる作品です。

青葉区長

小澤明夫

なぜ選挙にいく必要があるのか

鴨志田中学校 三年 伊関 暖

十八歳になったら選挙に行こう。学生に向けて促される、この言葉。私は一つ疑問に思うことができました。

なぜ選挙に行くことを促すのでしょうか。

この疑問を解決したのは一枚の紙でした。それは八月二十二日に行われた、横浜市長選挙での立候補者が記載されている選挙公報でした。数名の立候補者の顔写真や名前、学歴や業績が書いてあり、市民のために実施すること、実行することがたくさん書いてありました。

その中で私は、中学校給食の全員実施を実現しようとしている立候補者を見つけてきました。これは、私たち中学生の学校生活に影響します。これが実現することで、暮らしが豊かになる人が多いと思います。また、新型コロナウイルス感染拡大防止のためにワクチン接種などの対策を考えている方もいました。これも、私たちの生活に大きく影響します。他にもたくさんさんの提案が記載されていました。

私が選挙公報からわかったことは、選挙で選ばれた市長や知事などは私たちの生活や、暮らしを良くしてくれる大切な存在であるということです。

私たちが生活していく中で、不便なことや改善してほしいこと、こうなったらもっと豊かになるのと思うことがあると思います。市民の思いや願いを取り入れてよりよい市をつくるのが市長の役目だと私は考えます。県民の思いや願いを取り入れてよりよい県をつくるのが県知事の役目だと考えます。

その大切な役目をもって、市民・県民に最善を尽くせる人を選ぶのが「選挙」なのだとわかりました。

なぜ選挙に行くことを促すのか。この答え、それは、私たちの生活や暮らしが豊かになったり大きく変わったりするかもしれないからだと思います。立候補者は私たちのために、どんなことをしてくれるのか、どんな影響をもたらすのか。よく調べてよく考える必要があります。

私は今、中学三年生です。選挙権を得られる十八歳まであと三年あります。この三年で選挙について、もっと学び十八歳になった時に十分な知識と責任をもって投票できるようにしたいと思います。どんな人が私たちの暮らしをよりよいものにしてくれるのか、まずは一枚の紙から知ってみるといいかもしれません。

若者が投票するには

鴨志田中学校 三年 廣橋 杏香

先日、横浜市長選挙が行われ、投票率が前回四年前の選挙より十一・八四ポイント上回って四九・〇五パーセントになったと報じられました。私は、投票率がとても低いなと感じました。そこで、国政選挙はどうなのかと思い、衆議院議員総選挙の投票率を調べてみました。すると、最近の選挙は投票率が低下傾向にあり、その中でも特に二十歳代の若い有権者の投票率が低くなっていました。私は、なぜ若者の投票率がこんなに低いのか、どうすればもっと若者が選挙に行きやすくなるのか、考えてみました。

選挙に対する意識調査によると、若者は投票しなくても政治に影響がないと考えている人がほとんどでした。つまり、政治や選挙を「他人事」として捉えている若者が多いのです。また、政策の違いが分かりにくいと感じている人も多くいました。私も実際、先日の横浜市長選挙で候補者八人の政策の違いがよく分かりませんでした。テレビや駅前で演説をしているのもよく見ましたが、声が大きくて難しい言葉を並べていた印象しかありません。私は、若者の理解を得るために、政策についてもっと簡単に具体的に説明するべきだと思います。それには、若者がよく使うインターネットなどでの選挙活動を増やすと、政策がより分かりやすくなると感じます。

では、外国ではどうなのでしょう。新聞にコストリカでは、子ども達が選挙活動を手伝っていると書いてありました。例えば、応援する候補者への投票を呼びかけたり、投票所内の案内をしたりと、子どもが選挙に関わる機会がとても多いのです。これらは、小さい頃から自分で考えて行動できるようにするためです。私は、日本でも子どもが選挙活動に関わる機会を増やした方が良いと思います。子どもの頃からそうした活動をすることで、選挙に意欲的になって、行く人が増えると考えられます。

今回調べてみて、若者の投票率が低い理由が色々と考えられました。このままだと、国民が主権を持っているという意識を持って、自分たちの代わりに政治を行う代表者を選ぶ事が上手くできません。だから、選挙の仕組みを改善する必要があると強く感じました。私はあと三〜四年で選挙権を与えられるので、その時は積極的に投票したいと思います。

みなさんは「投票率」という言葉の意味を知っていますか。投票率とは、有権者総数に対する投票者の比率を指します。つまり、選挙権を持っている国民の中でどれだけの人が投票をしたのかという割合でもあります。その「投票率」が、ここ最近減少しているそうです。そして、年代別でみてみると若い人の投票率が特に低くなっているようです。なぜこのような状態になってしまったのでしょうか。

インターネットを使い、色々調べてみると、そもそも投票所へ行くのが面倒だったり、家族や友達と政治に関しての話をしていなくて、日常的に政治の話をせず興味を持たないから、などの理由があるようです。

このことから、特に若い人たちは政治に関してはほぼ会話せず、興味を持たないため非日常的であることが分かります。今考えてみれば、僕も最初はたかが一票自分が投票したって政治が変わるわけないと思っていました。しかし、この僕の持っていた政治への偏見的な考えを無くしてくれる出来事がありました。それは、八月二十二日に行われた横浜市長選挙です。

今回行われた横浜市長選挙では山中竹春氏が当選しました。その中で、今回の選挙では、小此木八郎氏も立候補していました。小此木氏は内閣総理大臣の菅義偉氏が推していました。当初は有力候補とされていましたが、落選してしまいました。この小此木氏落選の背景には菅氏が推していたということが関係しているようです。そもそも、市長選以前の問題で、今、この新型コロナウイルス禍での菅首相の政治やコロナへの対応を好まない人が多かつたようで、そんな菅首相の推している人に投票したくないという人がいたということが考えられるようです。つまり、新型コロナ対策などでの菅政権に対する批判が、菅首相が推していた小此木氏にも向けられたということが考えられます。

今回の横浜市長選挙での出来事は、首相も関わっていたため、横浜市内のみの事ではなく、国や菅政権にも大きな打撃を与えました。このように、時に市内の選挙でも国に影響を与えることもあることが分かりました。そうになると、一票の重みが変わってくると思います。一人一人の一票で市や県や国を変えることができます。今回の事で僕は、選挙について少し興味を持たったと思います。選挙権は十八歳から与えられるので、十八歳になったら投票所に大切な一票を入れに行きたいと思います。そして、今、選挙権を持っているのに投票していない人はぜひしてもらいたいです。

選挙を身近にするために

鴨志田中学校 三年 井澤 美南

平成二十八年六月十九日、選挙権が「満二十歳以上」から「満十八歳以上」に引き下げられました。年齢が下がれば、有権者が増えて投票総数が増加します。そうすれば若者の政治離れに歯止めがかかり、政治参加が進みます。つまり、少子高齢化など長期的な課題に若者の声をより反映させることが可能になるということです。これが選挙年齢を引き下げる最大のメリットといえます。実際に、国会の法案審議でも「未来の長い有権者が増えると、社会全体で未来に対する様々な議論が巻き起こるのではないか」「今後の日本を担う若者を政治に巻き込むことができる」などの意見が出されました。その結果、法改正直後の参議院選挙では比較的高い投票率を記録しました。しかし、翌年の衆議院選挙、三年後の参議院選挙では投票率が大きく落ち込みました。なぜでしょうか。私はこの理由について考えました。

まず一つ目は、投票するための制度です。投票をするには選挙人名簿への登録が必要です。しかし、選挙人名簿に登録されるには住民票が作成された日から三ヶ月以上必要など色々な条件があります。十九歳は大学進学などで一人暮らしを始めている人の割合が増えますが、住民票を実家に残したままにしているケースも多く、投票率は低くなる傾向があるとされています。

二つ目は、時間が足りないという点です。参議院選挙は日程がほぼ決まっているため、計画を事前に立てることができます。一方、衆議院選挙はそもそもいつになるのか分からないため、選挙に行く時間がつくれないという理由があげられます。他にも、衆議院選挙で投票しなかった大学生からは「社会経験の少ない若者には政党や候補者の訴えが分かりにくい」「勝敗がある程度見えていると投票する意義を感じない」「専門用語が多く、分かりづらい」という意見があることから選挙権年齢を下げただけでは意味が無いことが分かります。

また、投票した大学生からは「普段から駅前をよく見かけるなど頑張っている候補者がいて、応援したかった」「親がよく政治のニュースを見ていて、それについて一緒に話すので関心がある」「家族が投票に行くから自分も行くことが普通」など、引き続き投票している人の多くがその理由として親や家族の影響を挙げていることから選挙を身近にすることが第一歩だと分かります。

選挙を身近にするためには「主権者教育」をもっと早くから始める必要があると思います。主権者教育とは「国や社会の問題を自分の問題として捉え、自ら考え自ら判断し行動していく主権者を育成していく」という意味です。現在は高校から主権者教育が行われていますが、中学生のうちから選挙のシステムや国の問題をしっかりと理解することが大切だと思いました。

選挙がやってくる

山内中学校 三年 能城 茉依

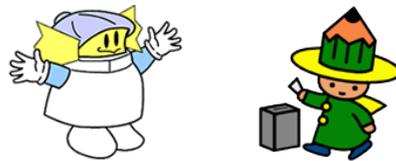
選挙が近づく。すると街には候補者のポスターが張り出される。私は小学生の時、学校の通学路にあるポスターの数が日に日に増えていくのを見て、「今回はどんな人が立候補しているのかな。」と、何気なく見ていた。

月日が経ち、気付けばもう中学生が終わろうとしている。私は十四歳。あとたった四年で投票しているという未来はあまり想像できない。少数ではあるが、日本よりも低年齢で選挙権が与えられている国があるにも関わらず。その理由は、政治がどこか雲の上の存在だと思ってしまうところにあると考えている。ニュースなどで、日本は若者を中心として投票率が低いとよく耳にする。選挙制度に違いがあるものの、G7の中でも六番目という低い投票率。その要因は二つあると思う。

一つ目は、政治の存在が身近に感じられず、実態がつかめないと思っている人が多く、結果、興味が薄れてしまっているところだと思う。では、身近な存在にするにはどうすればよいのだろうか。やはり選挙から政治のしくみ、日本の情勢までを知る必要があると思う。とはいえ、興味が持てなかったら、それらを知る機会がない。そこでまず、何故選挙に参加するべきだと言われているのかを知り、選挙の重要さを感じるべきだと思った。もし、日本が民主制でなかったら、王制となり、一人の代表者による政治が行われると考えられる。すると、過去の歴史から見ても、その一人の利益だけの国が造られてしまう可能性がある。そうなれば国民は自由が無くなり、生活は苦しくなってしまう。もちろん、その代表者一人が国民に負荷をかけるとは限らないが、一人だけのための政治が行われるべきではない。

二つ目は、今の日本は三権分立が取り入れられていて、国民の権利は満たされているので、自分一人が選挙に行かなくても安定した生活が送れると思ってしまうことであると思う。しかし、そのたった一票をみんなが捨ててしまえば、民主制は成立しない。そういった意味では、選挙権はもはや義務に近いと思う。そしてまた、今まで興味がなかったから知らなかったような情報を知れば、今よりもっと良い水準の暮らしができるようになるかもしれない。そう考えれば、選挙に行く意義が明確になる。

今まで私は、まだ選挙権を持っていないからと、どこか他人事だったような気がする。しかし、あと四年後には有権者になっている。有権者になるからには、自分の持つている権利を大切にしたいと思う。投票する上で、よく情報を知り、正しい判断をしなければならぬ。選挙は、自分の考えを反映できるチャンスだと考える。そんなチャンスを私は無駄にしたいくないと思う。



青葉区明るい選挙推進作文コンクール 2021 入賞作品集

<発行>

令和4年1月

青葉区明るい選挙推進協議会／青葉区選挙管理委員会／青葉区役所

〒225-0024

横浜市青葉区市ヶ尾町31番地4

TEL 045-978-2205~7

FAX 045-978-2410

☆入賞作品は、青葉区明るい選挙推進協議会のホームページでも公開しています。

青葉区明るい選挙推進協議会

検索

主催 青葉区明るい選挙推進協議会・青葉区選挙管理委員会・青葉区役所

後援 横浜市教育委員会